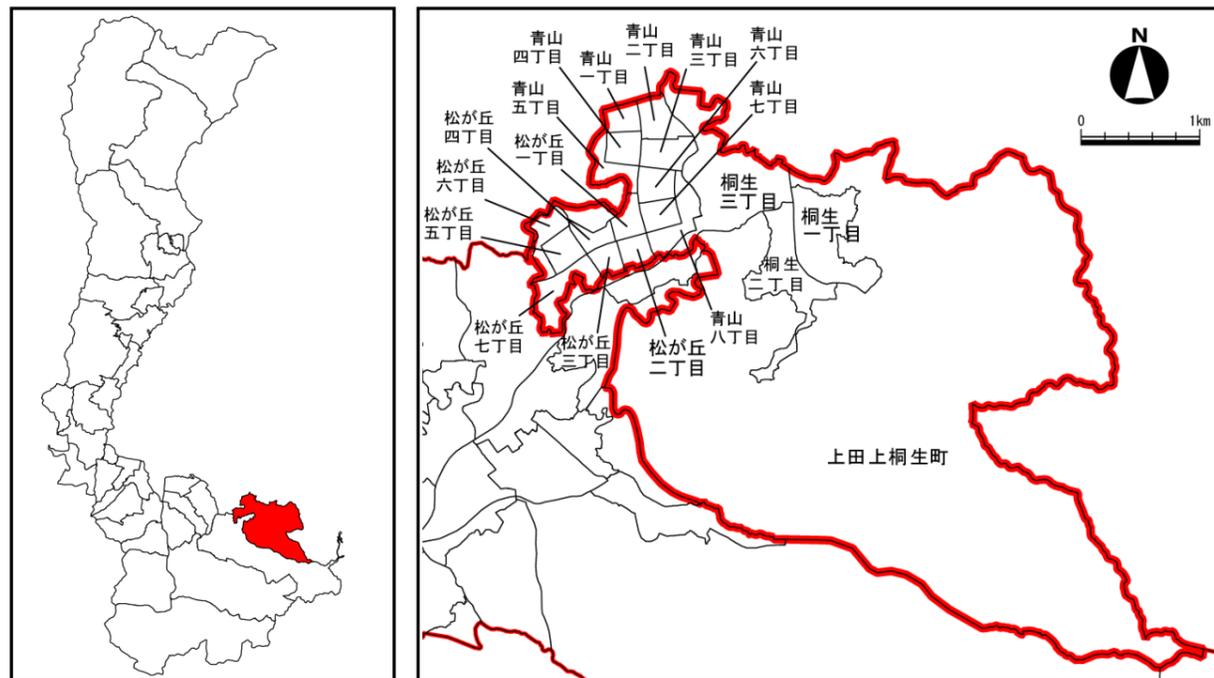


■ 学区の概況



<町丁名>

青山一丁目、青山二丁目、青山三丁目、青山四丁目、青山五丁目、青山六丁目、青山七丁目、青山八丁目、松が丘一丁目、松が丘二丁目、松が丘三丁目、松が丘四丁目、松が丘五丁目、松が丘六丁目、松が丘七丁目、上田上桐生町、桐生一丁目、桐生二丁目、桐生三丁目

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

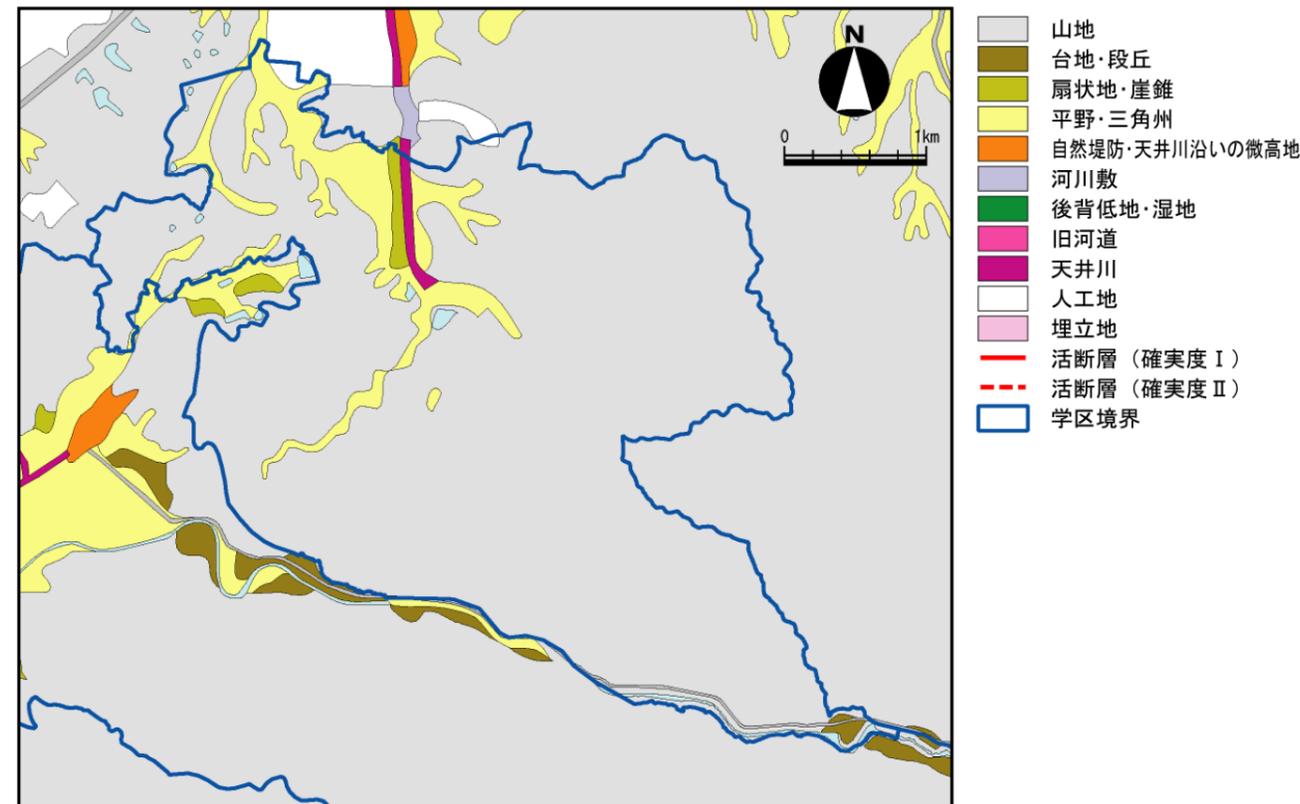
青山学区は、青山・松が丘地域に開発された住宅地が、平成4年4月に上田上学区から独立したもので、新しい建物、景観、文化が築かれていく地域である。

この学区は、丘陵地と山地からなる自然環境に恵まれた地域であり、とくに草津川源流は自然豊かなキャンプ場や湖南アルプスハイキングコースとして親しまれている。

近年は青山・松が丘地域において大規模な住宅開発が進められ、都市化が急速に進んでいる。

平成20年2月には、新名神高速道路が開通し、学区内を縦断し信楽方面に至っている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。
出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書(H17.3)

<地形の特徴>

- 青山学区の地形の大部分は山地であるが、北西部には丘陵地が見られる。丘陵地では、青山・松が丘地域を中心として宅地開発が進んでいる。

<地質の特徴>

- 主な山地部は田上花崗岩からなる。田上花崗岩は中生代白亜紀の火成活動により形成されたものである。
- 北東部の鶏冠山付近は、丹波帯からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の碎屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 北西部の丘陵は瀬田丘陵と呼ばれ、古琵琶湖層群草津累層からなる。草津累層は約200万年前以降に形成された淡水成の地層で、大昔の琵琶湖の堆積物である。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
青山一丁目	51.7	27.5	92.5	0.0
青山二丁目	44.4	65.2	86.4	0.0
青山三丁目	47.6	62.1	82.0	0.0
青山四丁目	50.0	31.8	96.0	0.0
青山五丁目	51.6	65.1	87.0	0.0
青山六丁目	44.9	58.8	64.0	0.0
青山七丁目	47.7	65.4	50.0	0.0
青山八丁目	50.0	64.1	63.4	0.0
松が丘一丁目	38.7	60.0	58.8	0.0
松が丘二丁目	46.7	64.4	53.3	0.0
松が丘三丁目	49.5	53.5	69.0	0.0
松が丘四丁目	61.0	79.0	71.3	0.0
松が丘五丁目	54.5	55.7	70.3	0.0
松が丘六丁目	-	-	-	-
松が丘七丁目	89.6	95.0	62.9	0.0
上田上桐生町	-	-	-	-
桐生一丁目	37.0	65.8	79.8	67.7
桐生二丁目	-	-	81.0	62.7
桐生三丁目	46.8	97.0	67.4	56.5
学区平均	46.8	94.4	73.3	16.9
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は46.8戸/haで市平均(全学区の平均)の59.3戸/haより低い。
- 不燃領域率の学区平均は94.4%で市平均の93.9%より高い。
- 木造率は、青山四丁目が96.0%で最も高く、青山七丁目が50.0%で最も低い。学区平均は73.3%で市平均72.7%より高い。
- 旧耐震木造建物割合は、桐生一丁目町が67.7%で最も高く、青山地区と松が丘地区が0.0%で最も低い。学区平均は16.9%で市平均40.3%を大きく下回り、市内で3番目に低い。
- 青山・松が丘地域は、開発された宅地であるため、すべての木造建物が新しい耐震基準で建築されている。

■ 人口の状況

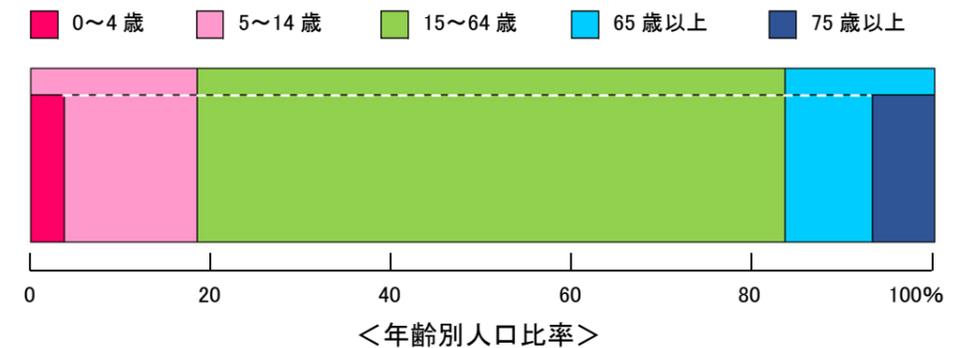
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	10,870	人		-	1
年齢別 (0~4歳)	391	人	学区人口に対する割合	3.6	1
年齢別 (5~14歳)	1,608	人	学区人口に対する割合	14.8	1
年齢別 (15~64歳)	7,059	人	学区人口に対する割合	64.9	1
年齢別 (65歳以上)	1,812	人	学区人口に対する割合	16.7	1
年齢別 (75歳以上)	759	人	学区人口に対する割合	7.0	1
世帯数	3,680	世帯		-	2
1世帯当たり人口	3.0	人/世帯		-	2
要介護認定者	269	人	学区人口に対する割合	2.5	3
身体障害者 (要配慮者)	91	人	学区人口に対する割合	0.8	4
知的障害者 (要配慮者)	25	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	83	人	学区人口に対する割合	0.8	5

(注) 1世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30現在)、4: 大津市データ (R4.3.31現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 人口は学区北部の住宅地(青山・松ヶ丘地域)に集中する。
- 高齢者(65歳以上)は1812人、乳幼児(0~4歳)は391人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ16.7%、3.6%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均(27.2%)より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均(3.9%)より低い。
- 要介護認定者は269人(2.5%)、身体障害者(要配慮者)は91人(0.8%)、知的障害者(要配慮者)は25人(0.2%)である。
- 外国人居住者は83人(0.8%)である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 ^(注1)	21 箇所	1
土石流危険渓流 ^(注1)	10 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 ^{(注1)(注2)}	22 箇所	2
土砂災害警戒区域 ^{(注1)(注2)}	27 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） ^(注1)	1 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流） ^(注1)	0 箇所	3
雪崩危険箇所 ^(注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 ^(注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 ^(注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 ^(注3) (0.0m~0.5m)	101,639 m ²	6
(0.5m~1.0m)	48,663 m ²	6
(1.0m~2.0m)	31,852 m ²	6
(2.0m~)	67,915 m ²	6
特に重要な水防区域 ^(注1)	0 箇所	7
重要水防区域 ^(注1)	0 箇所	7
防災重点農業用ため池 ^(注1)	13 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）
 3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）
 6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）
 7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 人口は青山・松が丘周辺の住宅地に集中している。
- 桐生地区に土石流危険渓流の分布が集中している。これらの渓流は草津川の水系である。豪雨などの場合は土石流危険渓流の危険区域とあわせて草津川についても注意が必要である。
- 学区内には急傾斜地崩壊危険箇所が点在する。豪雨などの場合はもちろんのこと、地震時にもこれらのエリアで崩壊が生じ、2次的に災害が発生する可能性があるため警戒が必要である。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	青山小学校グラウンド	○	○	○		青山三丁目 16-1
	青山中学校グラウンド	○	○	○		青山八丁目 24-1
	青山幼稚園グラウンド	○	○	○		青山三丁目 16-2
指定緊急避難場所兼指定避難所	青山市民センター	○	○	○		青山五丁目 13-36
	青山小学校体育館	○	○	○		青山三丁目 16-1
	青山中学校体育館	○	○	○		青山八丁目 24-1
	青山幼稚園	○	○	○		青山三丁目 16-2
指定避難所	青山中学校武道場			—		青山八丁目 24-1
	(福) 青山児童クラブ			—		青山三丁目 16-3

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※(福)印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
青山市民センター	青山五丁目 13-36	549-3663

<警察 110>

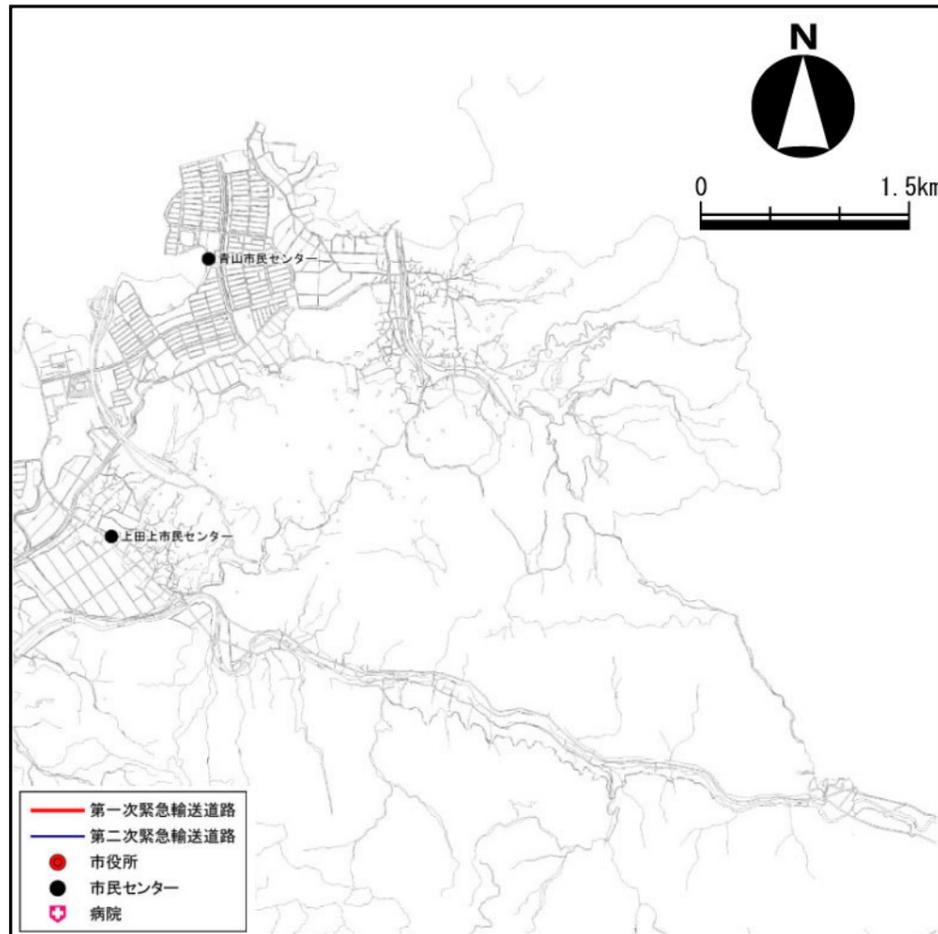
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
東消防署	大江四丁目 18-1	543-0119
青山救急出張所	青山五丁目 13-36	549-3799
青山分団	青山五丁目 13-36	549-0456



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777	
	琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321	
	滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101	
	滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111	

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数 (注1)	人口	建物被害			人的被害								
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	死者数			負傷者数			重症者数		
						早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	3,095	6,584	0	108	54	0	1	0	21	73	12	2	7	1
ケース2	3,095	6,584	0	3	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0
ケース3	3,095	6,584	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

被害想定ケース	地震火災 炎上出火件数			生活支障 避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	0	0	0	103
ケース2	0	0	0	3
ケース3	0	0	0	0

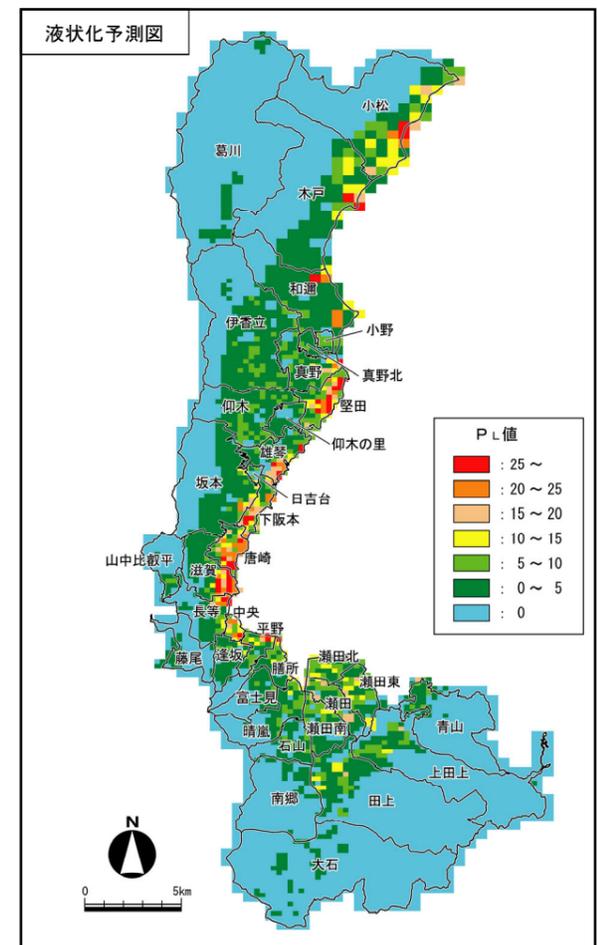
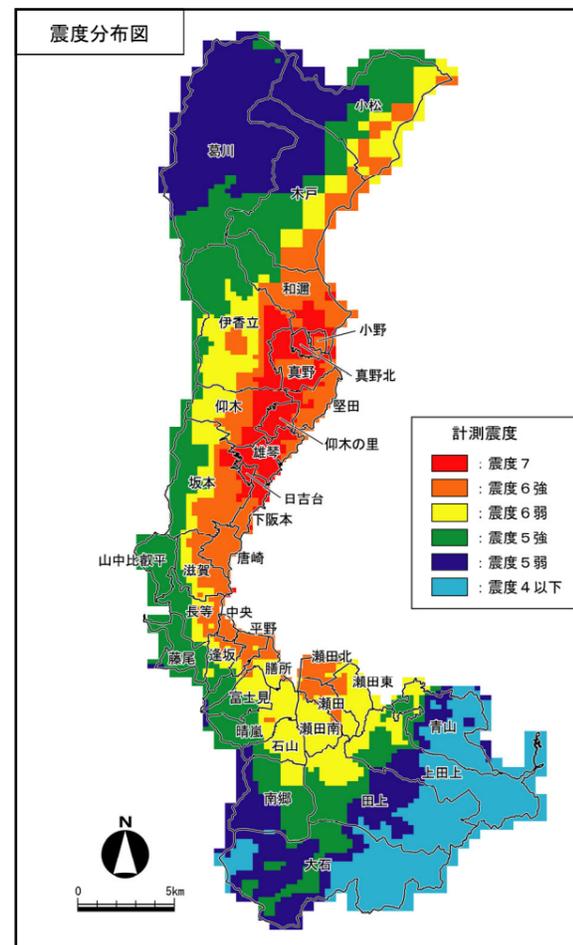
(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

(注1) 建物棟数のみ青山学区と上田上学区の合計である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(P_L ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
P_L ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

